

日交研シリーズ A-655
平成 26 年度共同研究プロジェクト
職業運転者の交通事故対策のあり方
刊行：2016 年 11 月

職業運転者の交通事故対策のあり方
The Concept of Traffic Safety Measures for Professional Drivers

西田 泰 公益財団法人交通事故総合分析センター
Yasushi Nishida

要 旨

平成 25 年度共同研究「職業運転者の高齢化が交通事故情勢に与える影響」では、社会・経済活動を支える道路輸送の担い手である職業運転者の高齢化が事故情勢に与える影響を調べ、短期的には事故率の高い若者運転者の減少により、事故の増加要因となっていないことを示した。しかし、長期的には事故の増加要因となる可能性はあり、職業運転者の事故対策について論じる必要性は高い。そこで、交通事故統合データベースの統計分析による職業運転者の属性や運転環境の分析や、アンケート調査、面接調査による長期間無事故・無違反である職業運転者等の安全意識の調査に基づき、職業運転者の交通事故対策について検討した。

統計分析からは、①職業運転者は 65 歳頃まで同じ車種を運転する傾向があり、バスや法人タクシー、自家用普通貨物はその傾向が強いが、事業用及び自家用中型貨物はその傾向が弱い等、車種により同じ車種を運転し続ける傾向に差がある、②大型貨物運転者はタクシー運転者等に比べ他県に転居する傾向が弱い、他県に転居した運転者の相対事故率は転居しない運転者に比べて高い、③女性や外国人の職業運転者の高齢化も進んでおり、職業運転者の高齢化や若者不足を女性や外国人で補うことは難しい等が分かった。

アンケート調査からは、④トラック(非宅配)の優良運転者は一般運転者に比べ、スピードを出し過ぎないを重視、⑤トラック(宅配)の一般運転者は加齢に伴う確かな自己評価ができなくなる等、運転方法や運転意識に差がある等、優良運転者を対象とした面接調査からは、⑥運転者はそれぞれの美学を持って安全運転を実践している等が分かったが、それぞれの職業運転者の運転環境(道路交通環境)は多種多様で、優良運転者の安全運転に関する回答状況にも多様性があり、生活環境(健康や家族関係等)の充実が無事故無違反に繋がるという仮説は検証されなかった。

これらの結果から、職業運転者の事故対策には、運転車種や地域による運転環境の違いによる事故特性の違いを考慮することが必要と考え、追加で都道府県別の統計分析を行った。その結果、⑦法人のタクシーやハイヤー、宅配等での利用が多い事業用貨物の事故の相手当事者(二輪車、自転車及び歩行者)の分布に都道府県による差があり、注意すべき対象が異なることが安全運転に対する優良運転者の回答結果の多様性に反映したと考えられる等、車種や地域に応じた事故対策の必要性を示す資料も得られた。

交通事故特性が運転する車種や地域による道路交通環境の違いを反映していることを考えると、職業運転者として一まとめにして事故対策を考えるのではなく、運転する車種や地域を絞り込んで事故対策を個々に検討する必要もあると考えられる。

キーワード：職業運転者、運転者の高齢化、事故の多様性

Keywords : Professional Driver, Aging of Drivers、Diversity of Road Traffic Accident